

記念講演「野宿者とは誰か？」開催報告



高沢幸男さん

総会後、「寿支援者交流会事務局長」高沢幸男氏をお招きして「野宿者とは誰か？」というタイトルで開催した記念講演にも、多くの参加者がありました。

高沢さんが実施された実態調査から、

野宿者の64%が50歳～64歳であり、性別では男性が96%と、中高年の単身男性が圧倒的に多いということ、また野宿者が激増した時期は失業率が急激に上がった時期と重なっていることなどから、定年前にリストラにあった50代後半のサラリーマンが、日雇労働も困難となって野宿せざるをえなくなり、65歳からは年金でふたたび生活ができるようになっている

という実態が透けて見えてきたという報告がありました。高沢さんは、野宿生活者とは日本がグローバルゼーションを推進した結果、社会的に生み出されたものであるという見方をされています。さらに、中高年男性の野宿者が多い一方で、多くの中高年男性の過労死者を生み出している現状から、私たちの社会の労働のあり方への問題提起がありました。また、野宿生活者を襲撃する事件にも言及され、襲撃する側も、さまざまな問題を抱えている事が多いことを知りました。弱い者がより弱い者を叩くという、今の日本社会の構図が「野宿生活者襲撃事件」から透けて見えます。

「家を持たない生活者」として野宿者を見つめる視点、「しんどい仲間の分かち合う姿の中に希望を見つきたい」「見捨てるな、分かち合え」という高沢さんの言葉の中に、高沢さんの優しさが伝わってきました。

(にしみつ)

「寿支援者交流会」

寿町や野宿生活者と市民社会を繋ぐゆるやかなネットワークとして設立。野宿の背景を学ぶ交流学習会、野宿経験者の個人史聞き取り、野宿生活者への訪問活動及び相談などを行っている。地道な活動が評価されて2000年12月に横浜弁護士会・人権賞、2001年12月にかながわボランティア基金21・奨励賞を受賞。

講師：高沢幸男さんのプロフィール

- 1990年4月に大学入学のために、姉を頼って横浜へ。
- 1990年夏から日本3大寄せ場の一つ、横浜・寿町に関わるようになる。
- 1992年12月28日に横浜駅で野宿生活者への駅員の暴行事件を目撃。通年的な野宿生活者との関わりが必要ということを感じた。
- 1993年1月に寿支援者交流会の設立に参加。
以後、野宿生活者への訪問活動および相談を通年で継続中。
- 2011年現在、内閣府パーソナルサポートサービス検討委員会構成員、横浜市ホームレス巡回相談推進協議会委員、神奈川県ホームレスに関する自立支援計画策定委員会策定委員、かながわ県民活動サポートセンター協議会運営委員（前会長）などを担っている。